

幼保小連携接続に関するアンケートのまとめ

愛知県幼児教育センターでは、令和6年10月に名古屋市を除く53市町村と幼児教育施設を対象に幼保小連携接続に関するアンケート調査を実施しました。回答を得た53市町村と、515幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園：回答率40%）の現状の集計結果を報告します。

○施設別参加園数（合計 515園）

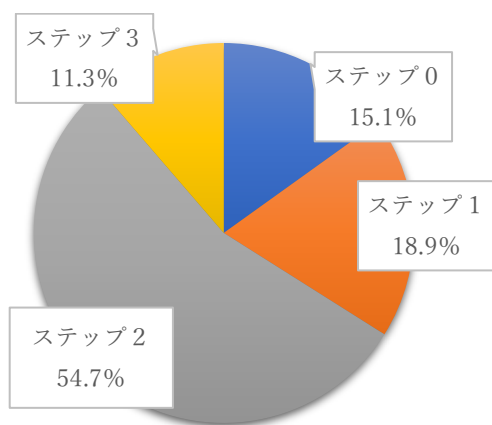
公立幼稚園	26	公立保育園・認定こども園	259	公立幼保連携型認定こども園	3
私立幼稚園	107	民間保育園・認定こども園	73	私立幼保連携型認定こども園	47

1 小学校との連携・接続について

<アンケート回答結果>

ステップ内容	自治体	参加園
ステップ0：連携の予定・計画がまだない	8	81
ステップ1：連携接続に着手したいが、まだ検討中である	10	95
ステップ2：年数回の行事・研究会などの交流はあるが、接続を見通したカリキュラムはない	29	276
ステップ3：交流が充実し、接続を見通したカリキュラムの編成・実施が行われている	6	56
ステップ4：接続を見通し編成・実施がされたカリキュラムについて、実施結果を踏まえさらに良いものとなるよう検討が行われている	0	7
	53	515

(1) —① 自治体

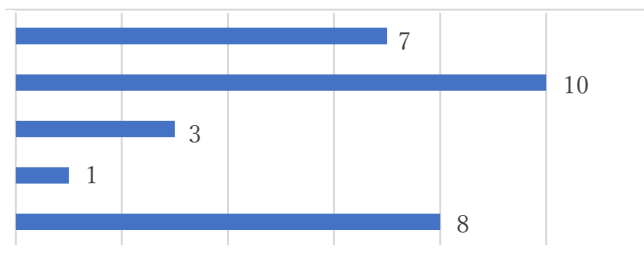


ステップ0・1の回答理由は全て「自治体内の関係部局・教育委員会での連携が難しい」であった

「架け橋期のカリキュラム策定」が前進していかない理由として、自治体内での連携が取れていないことが主な理由と考える。

(1) —② ステップ2と回答した自治体の現状について（複数回答）

- 園や学校での園児と児童の交流活動に自治体も参加している
- 自治体主体の幼保小合同研修・研究会を開催している
- スタートカリキュラムとの一貫性はないがアプローチカリキュラムは作成し市内の園で共有している
- 関係部局や教育委員会等が協議してカリキュラムを作成する必要性を伝えている
- その他

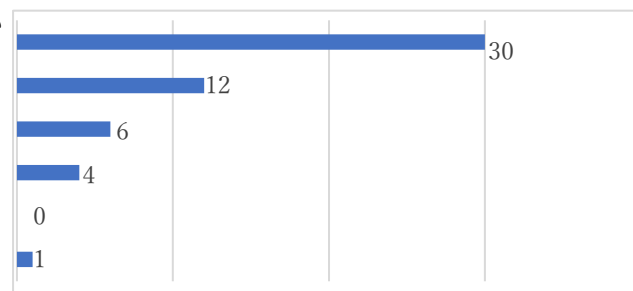


その他の内訳

- ・小学校が主体となり、園訪問や合同研修、会議を実施。
- ・園が入学予定児のクラス編成をしたり5歳児が入学体験をしたりする。

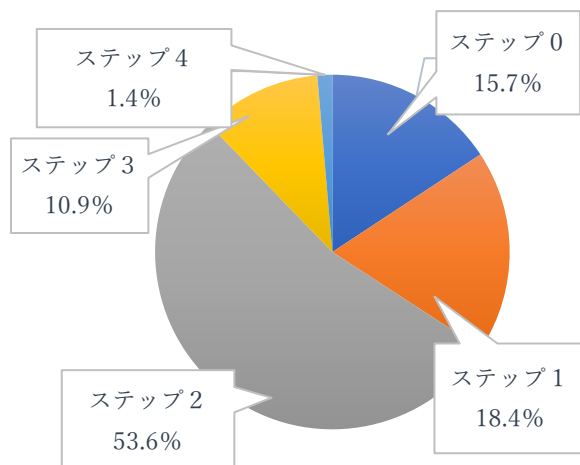
(1) —③ 現在「架け橋期カリキュラムを自治体」が取り組んでいる段階についての回答

自治体内の関係部局・教育委員会での連携・情報共有は 難しく、十分な連携が取れていない
「架け橋期のカリキュラム」の理解・作成のための推進活動をしている
関係部局・教育委員会・各園や学校の担当者が合同で会議を開催している
「架け橋期のカリキュラム」の作成に取り組んでいる
「架け橋期のカリキュラム」を現場で活用している
その他

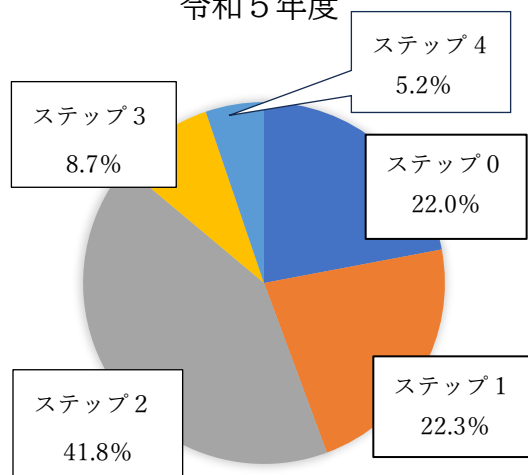


(2) —① 幼児教育施設

令和6年度



令和5年度

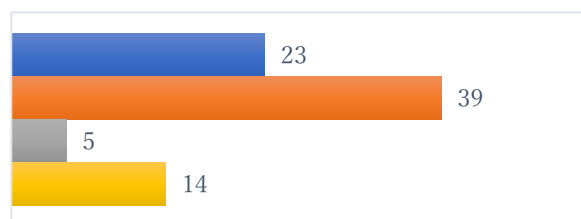


(考察)

- ・ステップ2と回答した園が約54%で、県内の半数以上が年数回の行事・研究会などの交流を実施している。
- ・昨年度と比べると、ステップ0・1と回答した園は10.2ポイント減少し、ステップ2の回答園が11.8ポイント増加しており、少しずつ取組が進み始めていると考える。

(2) —② 問1で1（ステップ0）と回答した理由

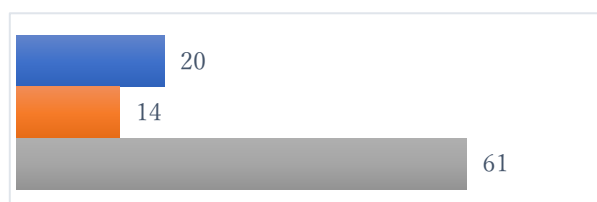
就学先の学校数が多く場の設定が難しい
どのように計画したらよいのかわからない
小学校との連携の必要性を感じない
その他



その他の内訳 就学に向けて情報交換はできているが連携については協力を得ることは難しい等

(2) —③ 問1で2（ステップ1）と回答した理由

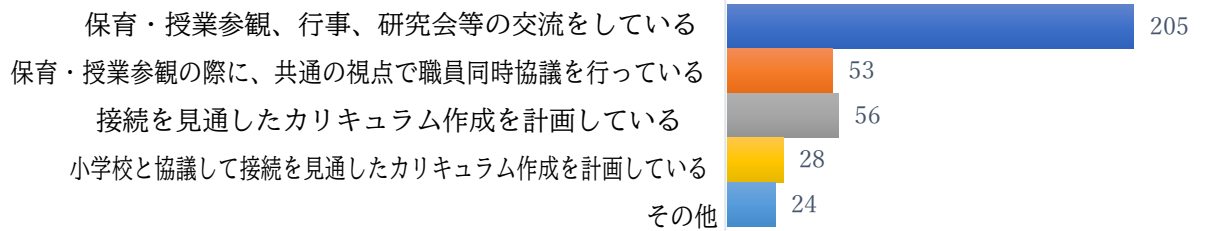
検討しているが小学校の誰に連絡を取ってよいのかわからない
小学校へ連携の問い合わせをしたが日程の調整が難しい
その他



その他の内訳 計画が具体化していない。
アプローチの体制が整っていない 等

(考察) ステップ0・1と回答した園において情報交換を行っている園はある。「就学先の多さによる連携の難しさ」よりも「連携の計画をどのようにしてよいのかわからない」園が多く、連携の計画を具体化することが難しいと考えられる。

(2) —④ 問1で3（ステップ2）と回答した理由（複数回答）

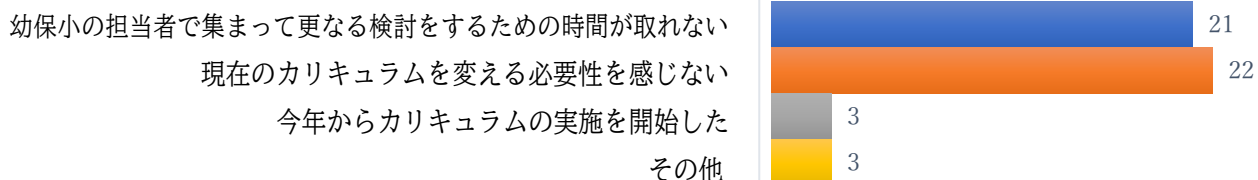


その他の内訳 就学前に体験学習をした。情報交換での話し合い。年長児交流会等

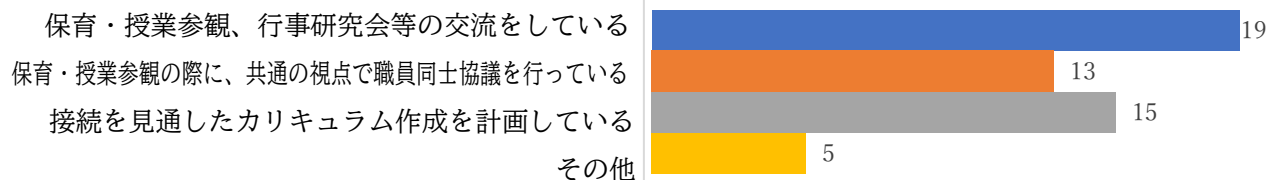
（考察）保育・授業参観、行事、研究会等の交流の場を設けている園はあるが、保育・授業参観の際に、共通の視点で職員同士協議を行っている園は少数である。カリキュラム作成へと進展している園は少ないと考えられる。

(2) —⑤問1で4（ステップ3）と回答した理由

(ア) 接続可能なカリキュラムの編成・実施に至ってない理由



(イ) 園の現状の取り組みについて



（考察）交流は充実しており、接続を見通したカリキュラムも実施しているが、互いに見直しをする計画を立てたり時間を設けたりすることは難しい。また、今年からカリキュラムの実施を開始したと回答したことで現時点では改定する必要性を感じていない園もあると考えられる。